

## 2007 年度学会賞等の選考および授賞について

白鳥 令 (表彰委員会委員長・国際教養大学)

JASAG 表彰委員会が日時: 2008 年 4 月 19 日 (土) 10 時から東京田町の東京工業大学キャンパスイノベーションセンター 7 階 708 号室で開催され, JASAG 会員および表彰委員会委員からの推薦に基づき, 2007 年度の JASAG 学会賞等の授賞候補者を以下のとおり決定し, 同日午後開催された理事会も表彰委員会の選考結果を承認した。

前年 2006 年度は論文賞および優秀賞に授賞対象者が存在しなかったが, 2007 年度はすべての賞に受賞者が決定された。JASAG 各賞の受賞者は, 以下のとおりである。

- 学会賞  
横浜国立大学経営学部 (YBG グループ)
- 論文賞  
北海道大学文学研究科・准教授 大沼 進 氏
- 優秀賞  
名古屋工業大学大学院工学研究科・教授 兼田敏之 氏
- 奨励賞  
東京工業大学総合理工学研究科・大学院生 市川 学 氏

この理事会の決定に基づき, 恒例どおり JASAG2008 年度春季大会の第 2 日目 2008 年 6 月 1 日に都市センターホテルで「第 13 回 (2008 年) JASAG 学会賞等表彰式」が開催され, 各賞の賞状が土谷茂久 JASAG 会長から, 副賞の賞金が科学技術融合振興財団 (FOST) 襟川陽一理事長の代理として白鳥令 JASAG 表彰委員会委員長から各受賞者に手渡された。

各賞受賞者の表彰理由, 審査対象論文, 略歴, 主要業績等は, 以下のとおりである。

### ■学会賞

横浜国立大学経営学部 (YBG グループ)

(表彰状)

授賞理由 「ビジネスゲームの研究開発および社会的評価と認知度の向上に対する貢献」

横浜国立大学経営学部 (YBG グループ) は, ビジネスゲームの研究開発および開発したビジネスゲームの全国の大学への無償提供, JASAG 年次大会での企画セッションの実施, 文部科学省の現代 GP および特色 GP への採択等を通じて, シミュレーション&ゲーミング学の社会的評価と認知度の向上に大きく貢献しました。

よってその功績を称え, ここに表彰いたします。

(授賞理由の詳細)

横浜国立大学経営学部は, 白井宏明教授をリーダーとする YBG グループを中心として, 2001 年度よりビジネス

ゲームの授業を開始し, そのノウハウを筑波大学, 高知大学, 長崎大学等に提供し, 現在 YBG グループ開発のゲームの無償提供先は 35 大学に及んでいる。

また, 横浜国立大学経営学部は, 研究面においても, 2004 年度から 2007 年度における JASAG 年次大会でセッションを企画提供し, 平成 16 年度文部科学省現代 GP 「経営学 e ラーニングの開発と実践—ゲーミングメソッドを基盤として—」や平成 19 年度文部科学省特色 GP 「体験型経営学教育のための教員養成計画—経営体験型シミュレーション教育の全国 FD 展開—」を実施するなど, 積極的に取り組んで, 成果を示している。

これらシミュレーション&ゲーミング学の重要な一部門であるビジネスゲームの研究・開発の実施, 開発したビジネスゲームの全国の大学への無償提供など, 横浜国立大学経営学部との中核の YBG グループの活動は, シミュレーション&ゲーミング学の社会的評価と認知度を高める事に大きく貢献したと審査委員会は認め, 「JASAG 学会賞」を授与することに決定した。



### ■論文賞

北海道大学 文学研究科・准教授 大沼 進

(表彰状)

授賞理由 「産業廃棄物不法投棄ゲームの開発と実践を通じた社会的ジレンマ構造に関する理論的および政策的考察」

貴殿は, 「産業廃棄物不法投棄ゲームの開発と社会的ジレンマアプローチ」(JASAG 学会誌, 第 17 巻 1 号, 2007 年)において, 社会的ジレンマ構造をベースに, 利得と情報の非対称性や信頼ゲームの要素等を加味し, 理論分析と政策分析の双方に対して基礎知見を提供するゲーミングモデルを考案され, また, その実験からの考察と知見において社会科学の既存の理論に修正の機会を示すなど, 社会科学の発展に大きく貢献しました。

よってその功績を称え、ここに表彰いたします。

(授賞対象論文)

大沼 進・北梶陽子「産業廃棄物不法投棄ゲームの開発と社会的ジレンマアプローチ」, JASAG 学会誌, 第 17 巻 1 号 (通巻 24 号 (2007 年))

(授賞理由)

授賞対象論文である「産業廃棄物不法投棄ゲームの開発と社会的ジレンマアプローチ」(JASAG 学会誌, 第 17 巻 1 号 (通巻 24 号), 2007 年)は, 北梶陽子氏との共同執筆論文であるが, 産業廃棄物不法投棄問題を扱う同種の論文の中で群を抜いた好論文である。

産業廃棄物の不法投棄問題に関して問題解決型ゲーミング研究に期待がかかる中, 既存研究の多くは, この問題を既存のモデル構造に「合わせて」過度に単純化する傾向が見られた。これに対し, 大沼氏のゲーミングモデルは, 社会的ジレンマ構造をベースに, 利得や情報の非対称性, フローの方向性, 信頼ゲームの要素等を加味することにより, 理論分析と政策分析の双方に対し, 基礎知見を提供する研究を可能にした。

理論分析においては, ミクロマクロ分析ツールの可能性を考察するとともに, 政策分析においては, 1997 年の廃棄物処理法改正の論点となった排出事業者責任の考え方について, ゲーミング実験上の知見から限定的ながら実務的な考察を行っている点を, 審査委員会は特に評価した。

開発したゲームキットのみならず, 実験からの考察・知見においても, 社会科学の既存の理論に, 修正の機会を示すなど, 社会心理学を含む社会科学の発展への貢献は大きい。

大沼氏にはまた, 過去に広瀬幸雄氏との共著好論文「仮想世界ゲームにおける環境問題解決策選好の規定因 (通巻 6 号)」もあり, この論文の質の高さも考慮して, 表彰委員会は下記対象論文に「JASAG 論文賞」を授与することに決定した。

(略歴)

1995 年 3 月 名古屋大学大学院 文学研究科 博士前期課程心理学専攻 修了 (文学修士)  
 1995 年 4 月 株式会社 三菱総合研究所 環境研究部 環境開発研究室 入社  
 1998 年 5 月 北海道大学 文学部 行動システム科学講座 助手  
 2000 年 4 月 富士常葉大学 流通経済学部 専任講師  
 2003 年 9 月 北海道大学 大学院文学研究科 行動システム科学講座 助教授  
 2005 年 2 月 博士 (心理学) 授与 (名古屋大学環境学研究科)  
 2007 年 4 月 北海道大学 大学院文学研究科 行動システム科学講座 准教授

## ■優秀賞

名古屋工業大学大学院工学研究科・教授 兼田敏之 (表彰状)

授賞理由 「『社会デザインのシミュレーション&ゲーミング』の出版および学会運営に対する貢献」

貴殿は、『社会デザインのシミュレーション&ゲーミング』(共立出版, 2005 年)において, 体系的で明確かつ説得的にシミュレーション&ゲーミング研究の発達を論じられました。また, 本学会理事を長年にわたって務められ, 特に近年は, 論文審査委員長という重責を果たしてこられました。

よってその功績を称え, ここに表彰いたします。

(授賞理由の詳細)

兼田敏之氏の著書『社会デザインのシミュレーション&ゲーミング』(共立出版, 2005 年)は, シミュレーション&ゲーミング研究の発達に関して体系的に書かれた好著である。日本人の手になるもので, この分野の近年の成果をこれほど手際よくまとめたものはない。また, 本書においては, 社会デザインのためにシミュレーション&ゲーミングがどのように活用されてきたか, また今後どのような発展や貢献が期待できるかに関して豊富な具体例に基づく論考がなされており, その記述はきわめて説得的である。

同氏はまた, 学会理事としての長年にわたり JASAG の発展に貢献してきた実績があり, 特に近年, 論文審査委員長という重責を果たしてこられたことも重要である。

さらに同氏は, 名古屋工業大学において後進の指導に積極的に携わり, 氏の指導学生の多くが日本シミュレーション&ゲーミング学会で発表や論文投稿をしている。

これらの業績や活動は, JASAG 優秀賞に十分に値すると思量され, 表彰委員会は兼田敏之氏に「JASAG 優秀賞」を授与することに決定した。

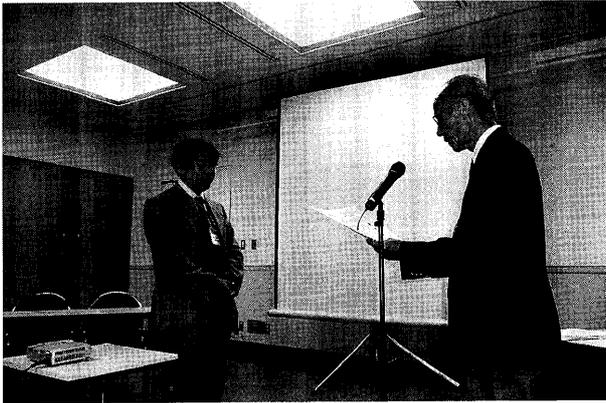
(略歴)

1960 年東京生。東京工業大学大学院博士課程修了 (社会工学専攻)。工学博士。

東工大助手, 愛知県立大学文学部助教授, 名古屋工業大学工学部助教授などを経て現職。

(審査対象著作・業績等)

1. 社会デザインのシミュレーション&ゲーミング (著書) 2005.7 共立出版, 305 pages
2. 多主体間協議ゲームにおける公正感の研究—廃棄物処理案検討手続きへの住民参加
3. のゲーミングの制作と試行— (玉木光と共著論文) 2006, 12 シミュレーション&ゲーミング Vol. 16, No. 2, p. 117-125
4. Developing a Pedestrian Agent Model for Analyzing an Overpass Accident (単著論文) 2007.1 N. Waldau et al. (eds.), Pedestrian and Evacuation Dynamics, 2005, Springer, pp. 273-284
5. 日本シミュレーション&ゲーミング学会, 平成 13 年 9 月より現在まで論文審査委員会委員長



6. 日本シミュレーション&ゲーミング学会, 平成 15 年 5 月より平成 17 年 6 月まで, 平成 19 年 5 月より現在まで副会長

#### ■奨励賞

東京工業大学 総合理工学研究科・大学院生 市川 学  
(表彰状)

授賞理由 「SOARS を用いたゲーミング研究」

貴殿は, JASAG 年次大会および ISAGA 年次大会等において, SOARS を用いたゲーミングに関する研究発表を行ってきました。また, SOARS 開発チームの一員として, マニュアル作成やサンプルモデルの整備, サマースクール等で講師を務めるなど, その社会的認知と普及にも大きく貢献してきました。

よってここに表彰し, さらなる研究活動を奨励いたします。

(授賞理由の詳細)

市川学氏は, JASAG 年次大会および ISAGA 年次大会において, 別記のシミュレーションおよびゲーミングに関する研究発表を行い, さらに本年度も ABSEL 等での研究発表が予定されている。

また, 同氏は, 東京工業大学出口研究室で開発しているマルチエージェントシミュレーター SOARS の開発の中心メンバーとして, マニュアル等の整備, セミナーでの講師なども務め, その普及に大きく貢献しており, それらの活動は高く評価できる。

これらの活動実績から, 今後の研究者としての大成を期待し, 表彰委員会は市川 学氏に「JASAG 奨励賞」を授与することを決定した。

(審査対象関連論文)

1. 市川 学, 小山友介, 出口 弘, 駅勢圏を中心とした都市圏シミュレーションモデル, 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2006 年度秋季全国大会論文報告集, pp. 19-22 (2006. 10)
2. 出口 弘, 小山友介, 田沼英樹, 市川 学, 諸藤秀幸, 倉田 正, 白瀧宏之, SOARS を利用したサンプルオンラインゲームの紹介, 日本シミュレーション&ゲー

ミング学会 2006 年度秋季全国大会論文報告集, pp. 43-44 (2006. 10)

3. 諸藤秀幸, 市川 学, 小山友介, 出口 弘, 公共調達制度の体験ゲーミング, 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2006 年度秋季全国大会論文報告集, pp. 65-68 (2006. 10)

4. Manabu Ichikawa, Yuhsuke Koyama, Hiroshi Deguchi, "The Introduction of a Basic City Simulation Model," International Simulation And Gaming Association (ISAGA), July 2006

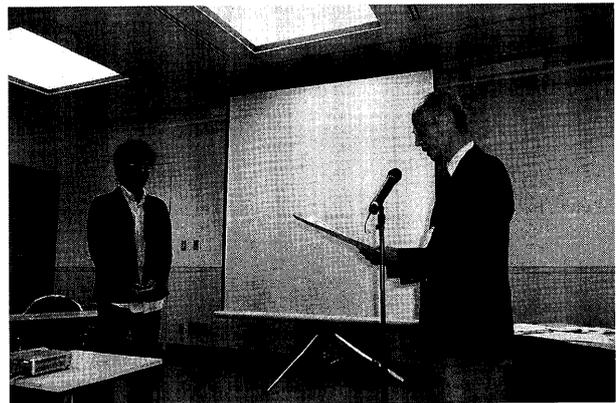
(略歴)

1999 年 私立桐朋高等学校卒業

2004 年 東京工業大学工学部情報工学科 工学学士

2005 年 東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻 理学修士

現在 東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻 博士後期課程在学中,  
2006 年 4 月より日本学術振興会特別研究員 DC1



#### ■表彰委員会から受賞候補者推薦のお願い

JASAG の学会各賞は, 会員からの推薦と表彰委員会のイニシアティブによる採択との二つの方法で候補者を選出することになっているのですが, 近年, 一般会員からの受賞候補者の推薦が減少傾向にあります。

しかし, JASAG のように, 学問領域の面から考えても研究手法の面から考えても多彩な研究者を包含している学会の場合, 少数の表彰委員ですべての研究成果の情報と評価を網羅することはできないのが現実で, 学会賞の公平性や選考の透明度を確保する面を考慮すると, 一般会員からの受賞候補者の積極的な推薦が不可欠と言えます。

学会各賞の推薦は JASAG 事務局にお送りくださればいつでも受け付けておりますし, 受賞候補者推薦の用紙は JASAG のホームページからいつでも得ることができますので, 多数の会員から来年度の受賞候補者の推薦がなされることを, 表彰委員会は期待しています。

(Rei SHIRATORI)